

さんとも つうしん 3 共通信

3月号



～共に感動しよう・共に汗をかこう・共に学び喜び合おう～

早春の候、皆様におかれましては益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。授業参観には、たくさんの保護者の皆様にお越しいただき、ありがとうございました。子供たちの一段と大きく成長した姿を見ていただけたことと思います。いよいよ今年度も残すところ1ヵ月となりました。1年間を振り返りながら、心に残る3月になればと思います。日常の姿は、HPで掲載しておりますので、ぜひご覧ください。また、今月のコラムは、相談学級の森先生、かがやきルームの笹先生、理科専科の大貫先生、学校支援員の芳賀先生です。にほんご教室の星野先生からは、環境委員会の取組の報告があります。合わせてご覧ください。

低学年

3月の学習予定

	1年	2年
国語	スイミー かたちのにているかん字 一年かんをふりかえろう	すきな場しよを教えよう 「ことばのアルバム」を作ろう
算数	かたちづくり 一年のまとめ	1を分けて 2年のまとめ
生活	一年生をむかえるじゅんぴをしよう	わたしのあしあと
音楽	ほしのおんがくをつくろう	みんなの音楽時計をつくろう
図工	こころのはなをさかせよう	みんなのギャラリー
体育	走の運動遊び 跳の運動遊び 投の運動遊び	表現遊び 投の運動遊び
道徳	もうすぐ二年生【よりよい学校生活】 あのね【正直・誠実】ぼくのしろくま【自然愛護】	わがままな大男【節度・節制】 まる子のかぞくへのしつもん【家族愛・家庭生活の充実】
外国語活動	1年間の復習	1年間の復習

学年からのお知らせ

1年	○荷物の持ち帰りについて 春休みに向けて、荷物を少しずつ持ち帰らせていきますので、ご家庭で点検をお願いします。持ち帰った学用品は、点検・整理をしてください。併せて、記名もお願いします。また、図画工作の作品や生活科の記録なども持ち帰ります。ぜひ1年間の成長を振り返ってみてください。最後の週には道具箱を持ち帰りますので、大きめの手さげの準備をお願いします。 ○植木鉢について 子供たちが植えたチューリップは、大きく育ち始めています。植木鉢はこのまま学校に置いておき、2年生の野菜作りで使います。
2年	○荷物の持ち帰りについて 少しずつ荷物を持ち帰ります。最後の週には、道具箱を持ち帰りますので、大きめの手さげの準備をお願いします。持ち帰った学用品は、お子様と一緒に点検・補充・整理をし、併せて記名もお願いします。（色鉛筆やのり、セロハンテープなどの補充・確認）また、図画工作の作品や生活科・国語などのプリント等が入ったファイル・作品バッグを持ち帰ります。1年間の成長を振り返りながら、見たり読んだりしてみてください。

中学年

	3年	4年
国語	漢字の組み立てと意味 「わたしのベストブック」をつくろう	「言葉のタイムカプセル」を残そう
社会	わたしたちの市や生活の様子のおつきかわり	奥日光のゆたかな自然を守り生かすまち (日光市)
算数	そろばん 3年のまとめ	分数の大きさとたし算ひき算 4年のまとめ
理科	ものと重さ おもちゃランド	水のゆくえ 生き物の1年間
音楽	音の響きや組み合わせを楽しもう 物語の音楽を楽しもう	いろいろな歌声を楽しもう
図工	みんなでオン・ステージ！	ゆめいろらんぷ
体育	表現 ボール投げ	ゴール型ゲーム 表現
総合	あったかハートを広げよう	動け！ロボットくん！！
道徳	あんぱんの日【希望と勇気，努力と強い意志】 大通りのサクラなみ木【感謝】	点字メニューにちょうせん【勤労・公共の精神】 雨のバスでいりゅう所で【規則の尊重】
外国語活動	Who are you?	This is my favorite place.

学年からのお知らせ

3年	特にありません。
4年	特にありません。

高学年

	5年	6年
国語	資料を見て考えたことを話そう 伝記を読んで感想文を書こう	君たちに伝えたいこと・春に
社会	環境を守るわたしたち	世界の未来と日本の役割
算数	角柱と円柱	開け！算数ワールド
理科	もののとけ方	自然とともに生きる
音楽	わたしたちの表現	卒業式式歌
図工	色を重ねて広がる形	12才の力で（卒業制作）
家庭	いっしょにホットタイム	2年間の学習を振り返って，中学校の 学習に生かそう
体育	心の健康	フォークダンス
総合	レッツゴー！築瀬リーダーへの道	未来予想図
道徳	わたしの学校【よりよい学校生活，集団 生活の充実】 イルカの海を守ろう【自然愛護】	桜守りの話【勤労，公共の精神】
外国語	Review 世界の友達 3	1年間の学習を振り返って

学年からのお知らせ

5年	19日（火）卒業式に在校生代表として5年生が参加します。 8時30分登校，11時15分下校。 【服装について】華美にならず，式にふさわしい服装，名札をつける ふさわしくないもの→ベンチコート・厚いジャンパー・短すぎるスカート・フード 付きのもの・ジャージ
6年	いよいよ卒業の月を迎えました。一人一人が成長の喜びを胸に，新しい生活へと踏 み出せるよう支援していきたいと思ひます。 19日（火）卒業式 午前10時開始 全員が卒業証書を授与されるよう，健康管理にご協力をお願いします。

<さんとも コラム> 森綾美 先生

相談学級ってどんな学級？

相談学級は学校内に設置されている不登校支援を専門に行う特別支援学級で、宇都宮市で築瀬小学校と旭中学校に設置されています。保護者の協力の下、児童の特性や状況に応じて登校時間や活動内容を柔軟に設定し、一人一人の児童のペースで活動を進め、じっくりと将来に必要な力を付けていくことを目指しています。

※入級にあたっては、教育センターで入級が適当と判断された児童が対象となります。

相談学級について詳しく知りたい方は宇都宮市教育センターHPに詳細が載っておりますので、ご覧ください。

傾聴・受容・共感を意識して関わる

児童にとって相談学級が居心地の良い場所となり、安心して話をしたり、活動に取り組んだりできるよう、以下のことに気を付けて児童と関わっています。

ご家庭でお子様と関わる時にも大切なことかと思いますので、参考にしていただけると幸いです。

- ①傾聴（まずは子どもの話をよく聞く。）
- ②受容（子どもの思いを受け止める。）
- ③共感（いろんな言葉で共感する。興味を持つ。）



①については、なるべく話を遮らずに最後まで聴くことがポイントです。

②については、子供の話を聴いたあと、「そうなんだ。」「そうだったんだね。」とまずは、子供の思いを受け止めます。内容について「あれ？」と思っても一旦は受け止めます。

③については、話をよく聴いた上で、「そうだよね。」「わかる！」「それは残念だったね。」など、共感の言葉を伝えたり、「それってこういうこと？」「〇〇について詳しく教えて。」などと言葉を返したりすることも相手に「興味をもっているよ」というメッセージを伝えることになります。

子供たちの中には、話すことが得意な子もいれば、苦手な子もいます。たとえ、自分から上手く話せなくても聴き手が待つ姿勢でいれば、子供は安心してその子なりに自分の思いを表現することができます。子供の話に耳を傾け、受け止め、その思いに共感することで子供は「聴いてもらえた。」「聴いてくれる人がいる。」という安心感・満足感を得て、色々な活動に対しても前向きに取り組むようになるということをここ数年の相談学級での児童との関わりから実感しているところです。現代人はスマホやPCにとらめっこする時間が多くなりがちですが、画面から離れて人間同士の触れ合いやコミュニケーションを大切にしていきたいですね。

笹 由記 先生

朝の立腰タイム

今年度、築瀬小学校に来て、良い習慣だと思ったことの1つが朝の立腰タイムです。朝、8：10になると放送が流れ、立腰タイムが始まります。児童は目を閉じ、腰骨を立てて、1分間姿勢を整えています。

立腰タイムについて、かがやきルームに来ている児童に聞いてみました。

「私はどんな1日になるかなーって考えているの！」

「ぼくは・・・『無』ですね。」

「私は、好きなアイドルの踊りを考えて楽しい気持ちにしてる♪」

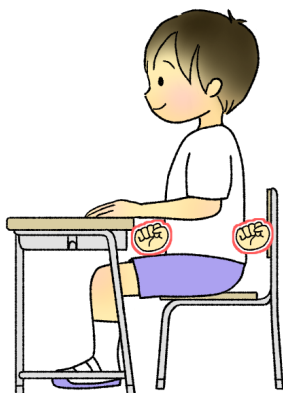
「なーーーーんにも考えてないよ。」

「私は、頭の中で計算をしてる！」

・・・など、答えは様々です。でも、姿勢だけでなく、心を落ち着かせたり、1日のやる気を出したりするための大切な時間だということを教えてくれました。

かがやきルームでも姿勢良く学習することを大切にしています。立腰タイムのおかげか、姿勢良く学習できている児童が多いように感じます。姿勢が良くなると、胸が開いて深い呼吸になり、脳に十分な酸素が行き渡るそうです。そのため、集中力がUPするみたいですよ。

大人の私たちも「姿勢と心」を整える時間を意識して過ごしていきたいですね。



せなかとおなかに

グー

ひとつ

足は

ピタ

せなかは

ピン

かがやきルームの掲示より

大貫孝先生(2回目の登場)

築瀬小今昔物語

※きちんとした記録を調べたのではなく、私の記憶で書かせていただいています。

学校の遊び場所は？

城東小学校ができる前、築瀬小学校は1学年5クラスで40人学級もあり、児童数は1000人を超えていました。現在校庭西側にある3つの建物はありませんでしたが、とにかく校庭は子供たちでいっぱいでした。そのためか、屋上で遊ぶことが許されていました。南校舎はすべて教室で、高学年になるとよく屋上で遊びました。理科で作った車を走らせたりコマ回しをしたりと、いろいろできました。高いビルもなく日光連山もよく見えました。 **昔の築瀬小学校の学校表札→**



子供会はどうなったかな？

大人数でしたので、子供会活動も盛んでした。私はつばめ子供会に入っていて、バス旅行やソフトボール大会のことを覚えています。一番印象に残っているのは「イナゴ捕り」です。当時線路の東側は「やなせ田んぼ」と言われた水田が一面に広がっていました。手ぬぐいと竹で作った入れ物をもって朝露の残る収穫後の田んぼに入り、跳び出すイナゴを追いかけて収穫しました。たくさん捕れたイナゴを家で乾かした後業者に売っていたようです。「いっぱい捕れれば、またバス旅行に行けるよ。」と大人たちに言われて必死でした。

虫を触れない子が増えた？

学生の頃、「小動物の天敵は動物ではなく、人間の子供たち」という言葉に出会いました。まさしく当時の小学生は虫やカエルの天敵でした。夏休みには「昆虫採集」をしたり、花火でカエルをいじめたりと、今思うとすごいことをしていました。今の子供たちはどうでしょうか。プールで捕まえたヤゴやミズカマキリを初めて見た子が多かったのには驚きましたが、若い先生たちも同様だったので仕方ないと思いました。小動物にはかわいそうですが、トンボの捕まえ方やアリジゴクの飼い方など、教えていきたいです。我が家では、前任校のプールで生まれたオタマジャクシがカエルになって、2度目の冬眠中です。

男の先生は怖かった？

6年間女性の担任でしたので、とにかく男の先生が怖かったです。廊下もすれ違いざまに少し下がらないと注意されそうで、キョロキョロしてました。特に体育の先生は声も大きくて「こらっ。」の一声で一括されました。そういえば、当時の先生は「おはよう。」が主流で子供に向かって「おはようございます。」という挨拶は少なかったように思います。私も初任の時は、ちょっと偉そうに「おはよう。」だけでした。

男女は平等です！

男尊女卑は日本の悪しき伝統かと思います。男女混合名簿開始から30年も経っていないと思いますが、「来週から男女混合の名簿になります。全員苗字にさん付けで呼びます。」と朝の会で言ったところ、「先生、気持ち悪いから俺はいつものように呼び捨てにして。」と体の大きな男子に頼まれたことをまだ覚えています。そんな中で1番うれしかったのは、卒業証書授与の1番最初が女子になり、あまり目立たなかった子が堂々と式に参加できたことです。お母さんも泣いていました。「女々しい」や「姦しい」はもう死語ですね。

PTA活動も、中心はほとんど女性でしたが、長は男性の名前でした。実家の居間には、PTA事業部長として父の名前で築瀬小からの感謝状が飾られていますが、父が学校に来たことはほとんどありません。子供なりに「変だな。」と思っていましたが、当時は当たり前だったのだと思います。

叱ると怒るの違いは？

本当に私はよく叱られました。家庭訪問に在宅してなくてはいけなかったのに、ランドセルを玄関に置いて遊びに行き、2日連続で先生から叱られ、3日目はしっかりした女子が家まで同行して、先生が来るまで私を見張ってくれました。そんな子だったので、母はPTAの役員を始めたと言いました。臨海学校では、同じ日に近くの宿に家族で宿泊し、6年生の1泊2日の社会科見学（東京観光）には、母親が同行（昔はPTAの支援）しました。

教員になり、「叱る」と「怒る」の違いについて、先輩から面白いことを教えていただきました。大切なのは「S」の有無です。「叱るのSIKARU」からSを取ると「怒るIKARU」になり、先生として失格だと注意されました。母はいつもSが付いていました。

おまけ

そんな私を上手に育ててくれた両親や先生たち、そして友達に感謝しながら、築瀬小学校に勤務しています。担当は5年生の理科のみですが、他学年のいろいろな子供たちと挨拶や声かけをして楽しい学校生活を送れています。もし、本校卒業の祖父母の方で天皇陛下と同じ学年の方がいらっしゃれば、「小倉（旧姓です）孝君、ちゃんとやってるよ。」とお伝えください。

芳賀優摩 先生

～なんの先生？～

築瀬小学校に赴任してから、2年が経とうとしています。そんな中、よく聞かれたのは「芳賀先生ってなんの先生？」でした。結論から言うと「学校支援の先生」です。言い換えると、学校全体のお手伝いをする先生です。たしかにいろいろな場面で会うことも多く、不思議ですね。聞かれるたびに「算数の先生」「お手伝いの先生」「補教の先生」「給食のときに来る先生」などなど聞かれたときに答えが変わることもありましたが、実は大体のことは本当です。

自分だけではなく、学校にはみんなの见えないところでも活躍している先生がたくさんいます。みんなが安全に楽しく過ごせるように動いている先生がいることを頭の片隅に置いておいてくれたらうれしいです。



～成長しているよ！～

いよいよ3月になりましたね。

6年生は、卒業に向けて総仕上げ。1～5年生は、ひとつ上の学年に上がるための準備の時期ですね。今年度を振り返ると楽しかったこと。嬉しかったこと。失敗したこと。悲しかったこと。それぞれあると思います。そして、そのすべてが詰まっているのが今の皆さんです。

さて、成長を実感するのは案外難しいもので、まわりから言われても実感がわからないこともあるでしょう。

私は、全部のクラスに入ったことがあるので、皆の成長を見る機会も多く、できるようになったことや、お友だちや学年が下の子に優しくしている姿などの成長を目にします。そのときはいつも温かい気持ちになります。

最後に、昨日は挑戦できなかったことに今日は挑戦できた。昨日は全く食べなかったものを今日は一口食べられた。昨日は挨拶を返すだけだったけれど、今日は自分から挨拶できた。などなど。本当に小さな一歩かもしれないけれど、その小さな一歩を積み重ねることで、いつか大きな一歩になります。応援しているよ！ファイト！



星野久絵 先生

築瀬小は宝箱～環境委員会“届けよう、服のチカラ”プロジェクトから感じたこと～

私は、昨年度、1年1組の担任をしていました。現在の2年1組です。このクラスの児童は、様々なことに興味をもちチャレンジをする子供たちでした。ある日のことです。このクラスのメンバーの1人である、井上裕花さんからこんな提案があったのです。「星野先生、新聞でこんな記事を見つけました。難民の方を助けるために、私も協力したいです。築瀬小学校で取り組むことができますか？」

この提案こそが、今年度、環境委員会が取り組んだ、ユニクロとのコラボ“届けよう、服のチカラ”プロジェクトだったのです。3共通信2月号でも紹介しましたが、築瀬小は、皆様もご存じの通り、日本語教室の拠点校です。ですから、この企画は、国際色豊かな築瀬小にぴったりの企画でした。まだまだ着ることができなのに、サイズが合わない。でも、思い出がたくさん詰まった子供たちの服ですから親としては簡単には処分できず。そんな服を回収し、世界中の難民の方のために役立てることができる。日本だけではなく、世界のためにもなること。そしてSDGsにも関わってくる。誰もがこれから目を向けていなければならぬことがたくさん含まれた素晴らしいプロジェクト。それがこのプロジェクトです。

ホームページでもお知らせしましたが、環境委員会の児童だけでなく、たくさんの保護者ボランティアの方々、宇都宮大学ボランティアの方々にもご協力いただき、集まった服の分別梱包作業を行い、無事に発送することができました。そして、1月末に、プロジェクトの報告書と感謝状がユニクロと国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）から届きました。報告書によると、今年度集まった服はウガンダ共和国の北部にあるビディビディ難民居住区に住んでいらっしゃる方々に送られました。たくさんの方に喜んでいただけたようです。



ウガンダ共和国



たくさんの方が
服を楽しみに並ん
でいます。



服をもらって嬉
しそう。

最後に、このプロジェクトに協力する機会を提案してくれた井上裕花さん。裕花さんのように、小学校低学年のうちから、世界に目を向け、世の中のために自分ができうることを考え実行に移そうとする、行動力を持った児童が築瀬小に在籍していることは、築瀬小学校の宝です。そして、このプロジェクトに賛同し、ご協力くださったたくさんの保護者の方々、児童の皆さんの温かな心。そして、これをきっかけに、能登震災の被害にあわれた方々に目を向けて、何かできることがあるはずと考えてくれた環境委員の皆さん。本当に築瀬小学校はたくさんの宝が詰まった素晴らしい学校だと改めて実感することができました。



